



(様式2)

令和7年4月16日

京丹後市議会議長 様

会 派 名 無会派
代表者氏名 鳴海公軌



調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

1 日程

4月13日～4月14日

2 場所

京都府舞鶴市

兵庫県明石市

兵庫県芦屋市

3 目的

- ・舞鶴市：天橋立ライフセービングクラブによる事例報告会に参加し、水辺の安全を守りつつ水に親しみ、R7年度京丹後市においても計画されているライフセービングのよりよい実装に向けて研究をするため。
- ・明石市：ユニバーサルビーチの先進地である明石市大蔵海岸における実際の取り組みや効果、運営の課題などを学び、R7年度京丹後市においても計画されているユニバーサルビーチの実践事業に向けた研究をするため。
- ・芦屋市：子どもの主体性を育み教育環境の実現のための教育改革及び学習指導要領改訂について学び、京丹後市の教育政策の向上につなげる研究をするため。

4 該当する政務活動費の使途項目

調査研究費

5 支出経費の内訳と金額

移動費

舞鶴 ライフセービング

日時：2025年4月13日（日） 14時00分～15時30分

場所：舞鶴漕艇センター（舞鶴市字浜1235）

研修概要

【天橋立ライフセービングクラブ 2024年度 事業報告書 概要】

■ 概要・代表挨拶

- 代表：中村佐知子氏。- 安全管理の徹底とクラブの居心地向上を目指す。
- 2000年に舞鶴で設立、複数の改称と活動地域の拡大を経て、2023年に「天橋立ライフセービングクラブ」に名称変更。
- 現在は天橋立・府中・丹後由良の海水浴場でのライフガード活動を実施するとともに、夕日が浦や静の里などの京丹後市内でも普及活動を実施。

■ 主な活動内容（2024年度）

1. 海水浴場の安全監視（7月13日～8月中旬）

- 天橋立・府中・丹後由良の3カ所で延べ206人のライフセーバーを動員。
- 来場者数合計：約27,000人、重大事故なし。

2. 臨海合宿・スポーツイベントの安全監視

- 京都教育大学附属中学の合宿（夕日ヶ浦）や、SUP体験（由良川）などで安全管理を実施。

3. トライアスロン大会の監視

- 滋賀・南丹などの大会に参加、水上バイクやIRBを使用。
- 天候によるスイム中止もあるが、大きな事故なし。

4. 講習会・普及活動

- IRBやBLS、ベーシック・ライフセーバーの講習会を多数開催。
- 指導員育成や地域の安全意識向上に貢献。

5. 出前授業・サポーター講習会

- 幼稚園・小学校・PTA向けに水辺の安全講習を多数実施。
- 宮津、伊根、与謝など幅広い地域で実施。

6. ジュニアプログラム

- 宮津市に拠点のある総合型地域スポーツクラブ「レインボー」と連携。
- プール・海・川での実技を交えた教育活動、防災教育も。

7. ライフセービングスポーツ競技

- 各種競技会に選手・審判・安全スタッフとして参加。
- 全日本選手権ではクラブ史上初のチーム出場を達成。

■ 今後の方向性

1. 組織運営

セクション制度の充実：各専門分野に分かれた役割分担で運営効率向上。

マネジメントグループとセクションの連携強化

広報の活性化：SNSやメディアを通じた発信強化。

2. 教育・育成

指導員の育成・拡充：IRBやBLS、ベーシックライフセーバーなどの講習機会を継続。

ジュニア世代への継続的な教育：楽しく学べる防災・安全教室の拡充。

行政や地域との連携強化：地元の声を反映した活動と連携企画の実施。

3. 安全監視活動の質向上

過去の活動から得た知見をもとに、現場での課題や改善点を共有・反映。

特異事例の共有と再発防止策の徹底。

4. スポーツを通じた普及活動

ライフセービングスポーツを入口にした若年層の巻き込みと啓発活動の強化。

所感：

宮津市や舞鶴市における海水浴場のライフガードでの事故予防と、今後の取り組みについて学んだ。委託料を受けて、実施しているものの、本来ライフセービングの専門性や労力を考えると、海水浴場に常駐できるようにするには多くの課題が残ると感じた。

京丹後市においては、夕日が浦海水浴場において、展望されているが、その人材育成とマネタイズについてを綿密に実施する必要がある。

また、海水浴場におけるライフガードだけでなく、水辺の安全教室やBLSという蘇生や応急、学校での出前授業など全般的に水辺の事故を防ぐ取り組みが実施されている。

水辺を安全に親しむことは、京丹後市民の郷土愛の醸成に欠かせない。

しかし、行政や学校での取り組みは限界がある。

行政においては、動き出している民間の取り組みを後押しするような施策が有効だと考える。

海水浴場の安全監視

海の京都OHQより委託

【天橋立海水浴場（文庫）】 7月13日～8月16日 9:00～17:00までの毎日

●海水浴客 14,347人

●ライフセーバー 延べ86人

天橋立海水浴場は天橋立公園に隣接し、穏やかな海と緑豊かな木々が美しい海水浴場です。また、遊歩道が整備されており、散歩やジョギングに最適です。

2024年度の監視業務は延べ86名のライフセーバーが交代で監視にあたりましたが、酷暑の厳しい状況下でも、安全な海水浴を確保するために、万全の体制と体制でサポートを行いました。



【府中海水浴場】 7月13日～8月16日 9:00～17:00までの毎日

●海水浴客 3,229人

●ライフセーバー 延べ48人

府中海水浴場は天橋立公園に隣接し、美しい砂浜と緑豊かな木々が美しい海水浴場です。また、遊歩道が整備されており、散歩やジョギングに最適です。



【丹後由良海水浴場】 7月13日～8月16日 9:00～17:00までの毎日

●海水浴客 9,434人

●ライフセーバー 延べ72人

丹後由良海水浴場は、美しい砂浜と緑豊かな木々が美しい海水浴場です。また、遊歩道が整備されており、散歩やジョギングに最適です。



臨海合宿・スポーツイベントの安全監視

京都府ライフセービング協会より委託

【京都府立大学附属高等学校臨海合宿】

●児童 90人

●ライフセーバー 2人

京丹波町立・津波町での臨海合宿の安全監視を行いました。今年度は初めての経験でしたが、各グループごとに監視員を配置し、安全な合宿を実施しました。ライフセーバーは各グループごとに監視員を配置し、安全な合宿を実施しました。



【奈良川里山プロジェクト（福知山環境合宿）】

●大学生 29人

●ライフセーバー 1人

昨年に引き続き、福知山市でのクワイビティ環境プロジェクトに参加しました。大学生が参加し、環境保護活動を行いました。ライフセーバーは各グループごとに監視員を配置し、安全な合宿を実施しました。



- 8 -

サポーター講習会

教育機関 出席者数

【明星幼稚園】

●幼児 17人(年長)

●指導員 2人

京都市の明星幼稚園で年長児と保護者を対象にサポーター講習会を行いました。ライフセービングの重要性や、水辺の危険性について学びました。また、e-learningの活用についても学びました。



【宮津市立宮津幼稚園】

●幼児 12人(全園児)

●指導員 1人

宮津幼稚園の職員が、明星幼稚園での講習会の模様を知り、依頼を受けました。e-learningの活用を活用し、水辺の危険性やライフセービングの重要性について学びました。また、e-learningの活用についても学びました。



【丹波地方PTA連絡協議会家庭教育部会「水辺の安全教室」】

●参加者 40人

●指導員 2人

丹波地方PTA連絡協議会の家庭教育部会からのご依頼で講習会を行いました。小学生と保護者を対象に、水辺の危険性やライフセービングの重要性について学びました。また、e-learningの活用についても学びました。



- 11 -

サポーター講習会

教育機関 出席者数

【宮津市立府中小学校】

●児童 27人(4年生)

●指導員 2人

今年度は、3回目の出席者数でした。毎年、海での講習会を行います。宮津市立府中小学校の児童が参加し、水辺の危険性やライフセービングの重要性について学びました。また、e-learningの活用についても学びました。



【宮津市立宮津小学校】

●児童 67人(3年生)

●指導員 2人

宮津小学校では、昨年の講習会に加え、今年度初めてプールでの講習会を実施しました。対象は3年生で、早く泳ぐ、泳ぐ、泳ぐという内容です。少し難しい泳ぎもありましたが、先生方の指導により、全員が泳ぐことができました。講習会で学んだことを、実際に泳ぐことで身につけてほしいです。



【伊根町立伊根小学校】

●児童 59人(全校生徒)

●指導員 1人

伊根小学校では、今年度で3回目の出席者数となりました。今年度も全校生徒の出席率を高め、水辺の危険性やライフセービングの重要性について学びました。また、e-learningの活用についても学びました。



- 12 -

明石 ユニバーサルビーチ

日時：4月14日 10:00～12:00

場所：明石市大蔵海岸

2024年度にユニバーサルビーチという、水陸両用車椅子を用いて、障害のある方も安心して海を楽しめる取り組みを実施している。

その概要は以下の通り。

－ ****開催日****：2024年8月4日（日）10:00～15:00

－ ****場所****：大蔵海岸海水浴場（兵庫県明石市）

－ ****主催****：明石市

－ ****協力****：NPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト、明石工業高等専門学校

－ ****目的****：障がいの有無に関わらず、誰もが海を楽しめる「インクルーシブなまちづくり」の実現

－ ****背景と意義****：明石市は、誰一人取り残さない共生社会の実現を目指し、「すべての人が自分らしく生きられるインクルーシブなまちづくり条例」を制定しています。本イベントは、その理念を具体化する取り組みの一環として開催された。

－ ****実施内容****

－ ****バリアフリー対応****：

－ 車椅子利用者が砂浜を移動しやすいよう、ビーチマットを設置。

－ 水陸両用車椅子を用意し、海水浴をサポート。

－ ****予算規模**** 約50万円／回 委託。

－ ****サポート体制****：

－ 明石工業高等専門学校の学生がサポートスタッフとして参加し、利用者の安全を確保。

－ ****ボランティアスタッフ****約30名。主に、ビーチサッカーやフレスコボールなどのスポーツ愛好者が中心。

－ ****参加者の声****：

－ 「海はハードルが高くて連れてこれなかったけど、喜んでいる様子が見られてうれしい」

－ 「明石で広まってほしいです」

－ 「脱衣所の環境をもう少し整えてほしい」

－ ****成果****：

－ 障がいのある方々が安心して海を楽しむ機会を提供。

－ 地域住民や学生ボランティアとの交流を通じて、インクルーシブな社会の理解促進。

－ ****課題****：

－ 更衣室やトイレなどの施設のバリアフリー化の更なる推進。

－ 定期的な開催による継続的な啓発活動の必要性。

－ ****今後の展望****

明石市は、今後も「対話と共創」を基盤としたインクルーシブなまちづくりを推進していきます。市民、行政、教育機関、NPOなど多様な主体が連携し、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指す。

所感

ユニバーサルビーチプロジェクトは明石市の隣市である神戸市須磨を拠点とする須磨ユニバーサルビーチプロジェクトとの連携により実施している。

ビーチごとやビーチの中でもユニバーサルビーチに適した場所があり、一定の専門的見地からのサポートがはじめは必要だと感じた。一方で、本来の「ユニバーサル」という考え方に立つと、本質的には年に1回の取り組みに障害者が合わせるよりも、海水浴開設期間中はできる限り対応ができるという状況が望ましい。そのためには、外部のNPOが単発で実施する形の先に、地元観光協会や地元NPO等での体制の構築が必要だ。そのためには、今年度の実証事業に多くの観光協会や、障害者関連団体に関わってもらい、自走の方法を検討していく運動をしていくべきだと考える。

I. ○全体図



I. ○ビーチマット設置エリア候補 A



- ・スロープ下から波打ち際まで約5.5m。
- ・スロープ下すぐは柔らかい砂。
- ・草地(約2.5m)は無い。
- ・唯一、波打ち際に岩や石がない砂地。
- ・スロープはバグースロープ。
- ・ビーチマットを設置するには適している場所。
- ・駐車場からは一番近い。駅からはさほど遠くない。
- ・搬入口から一番近い。可能であれば、砂浜まで車をおろせる※管理者に要確認。

搬出入は、砂浜近くでOK!
その後、一般駐車場へ。
8時～搬入開始・15時までに搬出完了

7/24決定) 駐車場・搬入路まわり

SUMA UNIVERSAL BEACH PROJECT



I. 〇仮設更衣室



※目隠しタープ（3m×3m）にベッドを設置
※シャワー室に入れない場合、ポリタンクで水を温めておいて、海水を流してもらう。



更衣室が1室では足りなかったとのこと。

〇参加者申し込みフォーム

参加に際しての注意点（介助について）

※我々のプロジェクトに参加するスタッフはボランティアであり介護士など有資格者ではありませんのでいわゆる「介助」は行うことができません。ココでいう「介助」というのは、身体に直接触れるサポートです。それ以外の、車イスをおさえたり、モノを運んだり、身体に触れないサポートは可能な限りさせていただきますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

スタッフとして参加されますか？
参加者として参加されますか？

- ☐ 参加者として参加します。
☒ スタッフとして参加します。

スタッフとして参加されますか？
参加者として参加されますか？

- ☒ 参加者として参加します。
☐ スタッフとして参加します。

体調管理について（飲酒されている方はサポートできません）
※参加に際して、体調不良の場合は決して無理なさらぬようお願いいたします。
※また、飲酒されている方に対しては、ロッカーなど使用USBとしてのサポートはできません。

- ご連絡先
・ 電話
・ 住所
・ お名前
・ 性別
・ 年齢
・ 資格
- 来場予定
・ 来場予定日
・ 参加予定時間
- その他
・ 写真等の活用
に関する意思確認
・ きっかけ

- ご連絡先
・ お名前
・ 電話番号
・ ご住所
- 来場予定
・ 来場予定日
・ 来場希望時間
- 障がい手帳を・・・
・ お名前
・ 性別
・ 年齢
・ 身長・体重
・ 手帳等の種類
・ 医療的な配慮・注意点
・ てんかんの詳細質問
・ 器具や常用薬
・ プール海の経験
・ 座位、顔、気持ち など
- その他
・ 同行者について
・ 写真等の活用に関する意思確認
・ きっかけ

障害者手帳や、利用者の希望を丁寧に聞き取る。看護師、救急隊も配置されるが、参加は自己責任。

Ⅲ. ◆ユニバーサルビーチ化の環境整備を進めるにあたって



- “ユニバーサルビーチプロジェクト”などの活動中心団体があるほうがいい
 - ビーチマットの管理運用整備
 - 水陸両用アウトドア車椅子（ヒッポキャンプ等）の管理運用整備
 - 来場者の対応（介助が必要な場合、更衣場所などの調整） 等
- ハード面の環境整備
 - トイレ、シャワー、更衣室、駐車場
 - ビーチマット等の購入、活動の委託 等
- 関係団体との連携
 - 設置許可（行政）
 - 事故の未然防止（ライフセーバー）
 - 遊ぶ仲間（民間企業、障がい当事者、海辺活動団体） 等

ないように、展望を示しつつ、具体化をはかる。

単発の取り組みで終わら

Ⅲ. ◆ユニバーサルビーチをつくる(当日環境編)



馬力が必要。

ボランティアスタッフの

⑥ にぎわいのあるまちづくり

No	項目	内 容	課名、予算額
67	大蔵海岸の魅力向上の取組 (拡充)	【趣旨・目的】 大蔵海岸の魅力を市内外に発信し、世界一のビーチスポーツ・スポットを目指すため、既存施設の改修や各種スポーツイベントの開催、インクルーシブビーチの取組など、大蔵海岸の賑わいにつなげる取組を進める。 また、神戸マラソンが大蔵海岸まで延伸されることから、安全な大会運営に取り組む。 【事業内容】 ○「(仮称)大蔵海岸みらいプロジェクト」の実施(新規) ・2024年度の「大蔵海岸活用内部検討チーム」の検討結果を受けて、さらなる検討を進めるための「(仮称)大蔵海岸みらいプロジェクト」を立ち上げる。 ○既存施設の改修 大蔵海岸を世界に誇れるビーチスポーツ・スポットとして、また誰もが安心して楽しみくつろげる憩いの空間とするため、既存施設の改修を行う。 ・施設の改修：ペビールームの新設、シャワー施設入口の改修及び給湯設備の更新 ・事業費：7,000千円 ○神戸マラソンの開催協力(新規) 神戸マラソンのコースが大蔵海岸まで延伸されることから、大会が安全に支障なく開催できるよう、実行委員会事務局等と連携・協力しながら取組を進める。 ・開催日 2025年11月16日(日) ・出走者数 約2万人 ○イベントの開催 ・(仮称)AKASHI ビーチスポーツフェスティバル OKURA 開催時期：9月 種目：ビーチサッカー、ビーチテニス、ビーチヨガ等 ・全日本ビーチバレーボール U-23男女選抜優勝大会 開催時期：7月 ○障害のある人の海水浴体験会(インクルーシブビーチプロジェクト)(新規) ・実施場所：大蔵海岸 ・実施回数：年2回(内1回は講習会を兼ねる) ・今後の本格的な運営に向けた調査・検討 【SDGsの目標】	海岸・治水課 7,000 課・費 0 経 費 5,300 その他 0 一般 700 産業学共創課 2,000 課・費 0 経 費 0 その他 0 一般 2,000 文化・スポーツ室スポーツ振興担当 970 課・費 0 経 費 0 その他 0 一般 970 インクルーシブ推進課 1,200 課・費 0 経 費 0 その他 0 一般 1,200

※明石市予算書(R7年度該当事業)



穏やかで水温の高い海。砂は佐賀県やオーストラリアから搬入しているとのこと。京丹後の場合、夏でも水温が低め。



舗装エリアから5.5m先まで、ビーチマットを敷く。京丹後のビーチには、もっと距離が短いところもある。(例：小浜海水浴場)



スロープがあるものの、緊急車両用のため、車椅子での利用だと、傾斜が急に感じた。



これまでから砂浜用車いすの貸出をしていたそう。しかし、この車椅子では、海には入れない。



実施エリアの全体感

芦屋 校則議連

芦屋市教育研修報告書

1. 研修概要

日時： 4月15日 14:00～17:00

場所： 芦屋市役所

講師： 芦屋市教育長野村氏 芦屋市長高島氏 他

なお研修者より資料をいただくことができなかった。

2. 研修目的

本研修は、芦屋市における教育施策の実践事例を通じて、探究的な学びを軸にした、「子どもの主体性を回復する」教育や、心理的安全性の確保、教職員の主体的な学びの支援体制について理解を深めることを目的とした。

3. 研修内容とポイント

(1) 芦屋市教育委員会の取組

① 教育理念と方針及び背景課題

- 理念：教師の学びと子どもの学びは相似関係にあり、子どもの主体性は教師の信頼により、教師の主体性は教育委員会の信頼により、「回復される」という考え方。（主体性は元来人間に備わっており、さまざまな経験を通して失われてしまったという考え。）
- 教育委員会の方針：現場に無理に押しつけるのではなく、教職員自らが参加する形で浸透を図っている。自由進度学習の実施や、研究指定校制度を廃止。
- 背景課題：全国学力テスト調査結果から、教科学習の学力は平均より高いものの、学びに向かう意欲や、自己有用感に関する指標は全国平均より下回る。

② OneSteperの取組

- 「OneSteper」とは、希望する教員が自主的に集まり、月1回のリフレクション会議を行う学びの共同体。
- 教育委員会が研修運営、事務作業（支払い、日程調整等）を担い、教員が本質的、主体的な探究、対話に専念できる環境を整備。
- 初年度である昨年度は37名の教員が参加しており、所属クラスでの教育成果が確認されている。（市全体の学力テスト・状況調査の結果はまだ発現したと言えないが、OneSteper参加教員のクラスにおいては、優位な調査結果が出た。）
- 教師の学びと子どもの学びは相似関係にあり、教師の成長が子どもの成長を促すという視点で運営。
- 芦屋市出身の教育哲学者苫野一徳氏によるサポートを受けている。

③ 働き方改革

- これまでの3～5年をかけて教員の業務改善を実施。授業準備等の時間を創り出し、時間外業務時間が45分／月を切る水準になっている。それが土台となつての、主体性だという考え。
- 教育委員会は事務的負担を積極的に軽減し、教員が学びに向き合える時間を創出。

④ PEACEサポーター制度

- 不登校未然防止を目的に、各学校にサポーターを配置。芦屋市では2校に1人の割合。
- 資格は問わず、子どもに寄り添える人物を面接にて選出。校内サポートルーム（F組）にて支援。
- 成果として、適応指導教室（のびのび学級）からF組への移行が見られる。

⑤ 地域連携・民間との協定

- センス・トラスト株式会社と連携協定を締結し、「本物に触れる体験」を子どもたちに提供。
- 教育は地域と共にあり、地域の力を信じるのが前提。

（2）芦屋市長の講話

① 教育に対する基本姿勢

- 「市長の使命は、市民の可能性を拓くこと」であり、学校はその核であると明言。
- 教育委員会の熱意を尊重しつつ、必要な予算措置を講じているが、「予算をつけるだけでは不十分」との認識を持つ。学校や教育委員会の力が教育環境をつくる。

② 教育改革の視点

- 「学び合う」ことを重視。自由進度学習など、子どもの主体性を尊重した柔軟な教育が必要。
- 学校の変革は、すべての教員や学級に一斉に広げることを目指すのではなく、焦らず着実に進めている。
- 子ども・教員・地域の主体性は相互に影響し合うとの立場。

③ 現場との関係づくり

- 教育改革の方向性を保護者らにも知ってもらう機会として「EDUCATION DAY」を実施。
- 校則見直しに対して、生徒から市長への直談判があったが、市長自身が学校に介入せず、生徒自身が見直すことができるように、「生徒との作戦会議」を通じて改革を支援。

④ 不登校や学びの多様化への視点

- 今後、教育課程内に学校以外の学びを設計していくことが求められる。
- 包摂的な学校づくりが重要であり、特別な支援が必要な子どもだけでなく、すべての子どもにとって良い教育の実現を目指す。

4. 所感・まとめ

芦屋市の教育施策は、形式的な制度運用ではなく、教師や子どもの「主体性」と「対話」に重きを置いたものである。教育委員会は教員を信頼し、行政的負担を軽減することで、現場の創造性を支援している。また、校長や市長も教育の意義を深く理解し、対話を重視する姿勢を持っていることが印象的であった。

研究指定校制度をあえて廃止するなど、挑戦的な姿勢も見られ、その結果として教職員の学びが深化し、子どもの学力・意欲に具体的な変化が生じている点は、他自治体にとっても学びの多い事例であるといえる。

京丹後市においても、新たな教育振興計画を策定し、探究を中心に、子どもの主体性をキーワードに教育改革をすすめようとしているところだが、現場の教職員や保護者との一体的な取り組みに至っていないという課題認識がある。

芦屋市教委のように、教職員を信じ、教職員の主体性が回復されるための施策が教育委員会に期待されるところであり、大いに参考にすべきと感じた。

